

# いっぽん!

第15号



■発行 伊藤ふみひろ後援会広報委員会 ■発行責任者 伊藤文博 ■連絡先 Tel.025-562-3988  
■公式ホームページ URL <http://www.fumihiro-ito.com> ■E-mail [f-ito@fumihiro-ito.com](mailto:f-ito@fumihiro-ito.com)

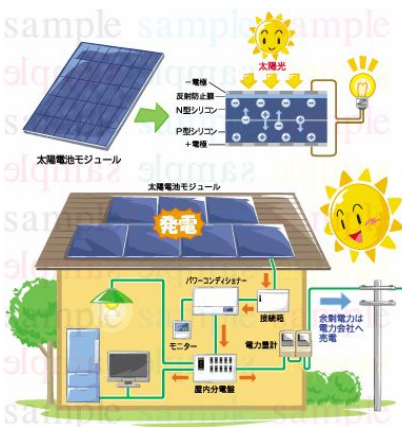


市民厚生常任委員会  
一般廃棄物最終処分場調査  
対策特別委員会 副委員長

## 「一」挨拶

梅雨も明け、厳しい暑さが続きま  
す。梅雨時期の各地での豪雨災害、  
梅雨明け後の熱中症による事故の続  
発など、気候の変化による災害事故  
が相次ぐ現状に、地球環境の変化に  
ついての心配が募ります。  
あらゆる問題について、国民・市  
民が関心を持って他人任せではなく  
自分が出来ることはないかを模索し  
ながら取り組んでいく姿勢が求めら  
れている時代になりました。

我が家でも太陽光発電とエコキュ  
ート、オール電化の取り組みをし  
ました。工事費と電気料、売電収入な  
どを試算し、国や糸魚川市の補助



金、政府の制度資金の借り入れ返  
済、都市ガス料金の減などを考慮し  
て、現状より若干の収支プラスとな  
る見込みを立てての取り組みでし  
た。

なかなか、支出を増やしてまで地  
球環境の保全に個人が取り組むこと  
は出来ませんが、私が検討したとき  
より補助金の制度も拡充され売電価  
格も上がって有利になっています。  
可能な方は、検討する価値がある  
と思います。

他にも、地熱利用の冷暖房システ  
ムや都市ガスを  
利用した発電シ  
ステムなど環境  
に配慮した様々  
な取り組みがさ  
れています。  
小さな工夫で  
あっても、あら  
ゆる場面で省エ  
ネを図り地球環  
境の保全に小さ  
な力を集めて大  
きな力とするこ  
とは出来ます  
ね。



## ■ジオパーク

糸魚川市が世界ジオパークに登録  
され一年が経過しました。8月22  
日には「**日本ジオパーク糸魚  
川大会**」が開催されます。

◆22日  
・日本ジオパーク認定証授与式

・基調講演  
・意見発表

子ども学迎員からのメッセージ  
パネルディスカッション

武田鉄矢と語る【今、ジオパー  
クがおもしろい!】

・記念演奏

◆23日  
「糸魚川ジオパーク音頭」ほか

## ・ジオサイト見学会

ジオパークで糸魚川を活性化しな  
ければなりません。「世界」と名が  
つき、「日本初」と名がついたジオ  
パークを生かし切れなければ、この  
先、次のチャンスが何時やってくる  
のでしょうか。

取り組みの遅さについて何度も一  
般質問で取り上げてきています。  
担当部署も一所懸命の取り組みで  
はありますが、「遅い」。  
チャンスは、半分掌中からこぼれ  
かけています。

## ■三月議会 一般質問

①糸魚川ジオパーク事業の平成22年  
度における展開について  
②職員の意識改革について  
③「日本一の子どもの育てる」につ  
いて

## ■六月議会 一般質問

①世界ジオパーク認定を契機とした  
糸魚川市活性化について  
②子宮頸がん予防ワクチン接種費用  
助成について

という主題で質問しました。課題は  
多い。取り組みはなかなか目に見え

て進まないのが現状です。

一般質問でのやり取りについては私のホームページで議事録を公開していますので、興味のある方はご覧下さい。

<http://www.fumihiro-ito.com>

ジオパークに関しては、新政会で糸魚川駅前の受入体制のチェックを行いました。勉強会として私が提案して実現したのですが、この春から組織された交流観光課の課長、ジオパーク推進室長と共に、実際の現場を踏査しながら意見交換したものです。

チェック内容の例としては  
①糸魚川駅に降り立って一番始めに「ジオパーク」を目にするのはどこで、それにより「ジオパークとは何か」に興味を持たすことができるか



■現状

改札口を出て右側に小さく「糸魚川ジオパークコーナー」があります。また、出札機の左側に「糸魚川旅紀行日本初の世界ジオパークを巡る」というポスターを中心にした掲示板が設置されています。残念ながら「糸魚川ジオパーク」が否が応でも目に飛び込んでくるといふアピールにはなっていない。

■対策

掲示板の位置を改札口正面に移動し、目立ちやすいようにする。来ていただける方の傾向を特定し、ターゲットを絞った形のアピール方法を模索する。

②観光客は、観光案内所・サテライトオフィスへ誘導されるようになっていて、それは充実しているか。

■現状

駅アーケードの柱に表示があるだけで目立たない。観光案内所が設置



されているヒスイ王国館の入口にも表示がない。

■対策

写真のようなイメージで案内板を設置する。

改札口



アーケード



ヒスイ王国館入口



観光協会の観光案内所と別にサテライトオフィスを設置し、連携して機能させる。サテライトオフィスには、観光ボランティアガイドの皆さんに常駐してもらうこととする。



サテライトオフィスのイメージ

3月まで設置されていたサテライトオフィスは開放されたスペースに良いところがありました。今回の案は、閉じられたスペースになつてしまいそうですので、そこを改善するように要求。左側のカウンターを無くして開放された空間となるようにしました。

現在、本設され稼働していますので、近くに行った際には寄ってみてください。

など、多岐にわたる内容についてチェックし、今後の対応を協議しました。今後も状況をチェックしながら、活性化に向けて取り組んで参ります。



## ■子宮頸がん予防ワクチン接種費用助成について

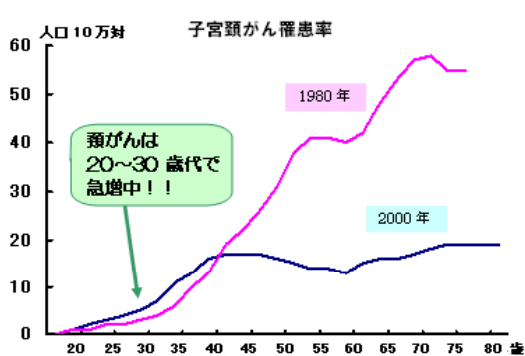
ウイルス感染で発症し若い女性に急増している子宮頸がんを予防するため、ワクチン接種費用を助成する制度が全国的に広がっています。

予防ワクチン接種は、思春期前の十二歳前後の接種が最も効果的とされていますが、費用負担が重く、保護者や医師側から市に公費助成を求める声が出ていました。

同じ新潟県の魚沼市が全国で初めて全額助成を決定し、6月1日から接種を開始しています。

「ワクチンで予防できる唯一のガン」として、糸魚川市の保護者からも助成制度に対する期待が高まっています。

糸魚川市における子宮頸がん予防に対する取り組み状況と今後の見通しについて市長の考えを聞きました。



## ◆ポイント

- ・子宮頸がんは、他のがんと違いワクチンで予防できる唯一の癌
- ・原因が解明されている
- ・国内で年間に推定約15,000人が発症し、約3,500人が死亡している。
- ・全国で助成制度が広がりを見せている。

6月11日の新潟日報では、9日現在約70の自治体が助成の方針といっているが、6月17日の報道では山梨県全域で助成となっていて急激な広がりを示しています。山梨県の補助制度を受けた県内市町村が「ほとんど全額助成」の模様で、高校生以上の接種には半額助成を行うことを追加決定している自治体もあるということである。

## ■糸魚川市の方針

助成の方向で前向きに検討する。

## ■課題

子宮頸がん撲滅の問題は、本来市町村単位で行うべきものではなく、国県が取り組むべきです。住む地域や所得の違いにより「格差」が生ずるのはおかしい。国県に積極的に働きかけて、助成制度の確立を目指すべきであります。

かといって、県や国の助成制度が

出来るのを待つのも、先行している市町村に対しての格差を容認していることにもなります。

市町村の取り組みが、国や県を動かすということもあり、糸魚川市の積極的な取り組みが求められます。

助成の率も問題となります。全国初全額助成の魚沼市では、当初摂取率が上がらず新聞報道もされましたが、その後、部活動の大会が終わるとグッと受診率がアップしたそうです。

我が子の健康を願わない親はいませんが、3回接種で5万円の費用は大きすぎ、なかなか接種できないでしょう。将来の医療費削減の観点からも全額助成に踏み切ってもらいたいものです。

## ■日本一のこどもを育てる

### ■疑問

①「日本一のこどもを育てる」とは？

次世代育成支援行動計画では「日本一の子どもを育てる」

平成22年度の予算編成にあたっての重点施策では

「日本一の子どもづくり」となっています。

キャッチフレーズとしてはどちら？

意図的に表現を変えているのかと思ったら、たまたまだったようです。

基本的に、糸魚川市が言う「日本一のこどもを育てる」の共通認識を、市の職員全体に浸透させ、その上に、市職員一人一人が自分なりの「日本一のこどもを育てる」を上乘せしていかなければなりません。

「次世代育成支援行動計画」にしても、計画の基本目標が「日本一のこどもを育てる」になっていますが、その意味が明らかではないので、具体的事業内容を見ても、そのどれが基本目標に添って計画された事業なのかすら読み取れません。





りながら明確な説明がなかったところを、情報をキャッチしたので同委員会が指摘して、ここも改善させることが出来ました。

### ③ 臨時の保育士が多い

就学前の幼児教育は人間の基礎をつくる大変重要な教育時期です。この時期の教育の良否が、人間の根っこ、幹の部分をつくるといっても過言ではありません。教育の現場が、家庭教育の肩代わりを求められる現状において、質の高い幼児教育を追求することは「日本一の子育て」には欠かせない要件です。

現状では、志のある若い保育士が地元に戻ってきていません。明日の糸魚川市を担う「日本一の子どもを育てる」といながらも、自分が育った糸魚川市の教育現場に戻ってこようとする若者を拒むようなことをしては、

兵庫県小野市では、市長の就任後10年間で教育費が3.6倍に伸びたそうです。

合併前の青海町で行われていた18才以下の第3子保育料免除の制度が、この4月から全市に拡大して実施されることになりました。

市民厚生常任委員会が「日本一の子どもを育てると言っていないながら、子育て支援の制度を後退させるのは認められない」と言って、合併後5年間で終わる予定だった制度を拡大継続させることになったものです。

しかし、保育料聴取の仕組みが違うことから、私立の幼稚園（糸魚川地域）には適用されない見込みであ

果、現在、正職員対臨時職員113対7のところを、5対5まで引き上げ

—糸魚川市子ども一貫教育方針の基本理念—

- 健康・心・学力のバランスのとれた子どもを育てます
- 一人ひとりの個性を生かしてその能力を伸ばし、子どもの夢を育てます
- ふるさと糸魚川をよく知り、郷土を愛する子どもを育てます
- 家庭、園・学校、地域が力を合わせて糸魚川の子どもを育てます



ることが表明されました。取りあえず、そのレベルまで達成した後でその後のことを検討すると言っています。

糸魚川市のホームページで「0才から18才までの子ども一貫教育方針」をご覧になれます。

ホーム↓教育・文化  
↓子ども一貫教育方針

<http://www.city.itoigawa.lg.jp/dd.aspx?menuid=4410>

### ■ 並行在来線経営会社（第3セクター）設立

5月11日の四者（知事・沿線三市長）協議時に、県側から経営会社から早期設立方針が示されました。かねてから経営会社の早期設立を三市長から要望していたことを受けての方針決定でしたが、6月議会で補正予算を通す必要がある性急な日程での提案のため、糸魚川市長も議会も受入を拒否しました。

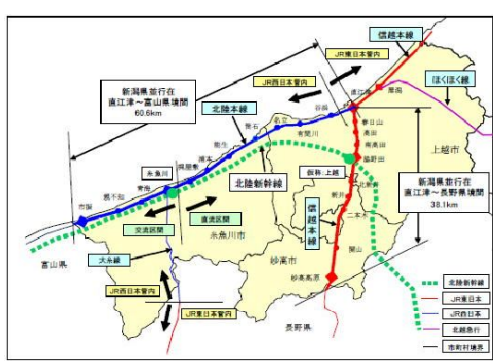
今後の赤字補填負担金額に大きな不安があることから、市長は議会に対して説明材料が不足し、議会には市民に説明できるだけの判断根拠がありませんでした。

その後、新潟県交通政策局長が糸魚川市に再三訪れ、説明の機会を持つて頂き、一応納得できる状況が形づくられました。

5月15日に経営計画（案）が示されましたが、大きな巾のある収支見込みとなり、今後、経営の責任を負うものが詳細な事業計画の中で改善策を講じながら収支見込みを好転させていく必要があります。

優秀な経営者をトップに据えて、入念な計画を立てて、利便性が高く市民負担の小さい鉄道会社を築き上げてもらわなければなりません。

我々市議会も、建設的姿勢で取り組む姿勢が求められています。



以上、活動報告でした。ご拝読感謝いたします。